

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社 ハルス		
事業所名	グループホーム はるすのお家 尾張旭		
所在地	尾張旭市庄中町2丁目4番地8		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&liyosyoCd=2374500607-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日の中でスケジュールはないが、日常生活の中で各自が出来る事を行い、また行えるようにきっかけを作ったりして生活を支援している。

日中は施設せず、いつでも戸外に出られるようにしており閉じ込められていると言う圧迫感がない。

毎月のように行事が企画され季節を取り込むように工夫されていたり、外出も本人の希望を聞いて個々にあわせている。

誤嚥の危険から敬遠されやすいこんにやくや餅も最新の注意を払い提供。スタッフの都合で食べさせないと言うことをなくしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人として当たり前の生活とはどんな事だろう。目の前に居る入居者一人ひとりが何を望んでいるか、何に困っているかを日常の中で気づきとして捉え、気づきからお手伝いが出来る職員育成をしている。拘束をしない生活は家族アンケートから訪れる人が行きやすいホームとなっている一因として窺える。訪問時に手際よく盛り付けや食器、調理器具を洗い、片付ける入居者の姿が会った。入居者や職員それぞれ得意、不得意があり互いを支えあう関係が毎日の暮らしの中で行われている。運営推進会議は勉強や交流の場となり入居者、家族、地域、市との良好な協力関係作りやホームのモニター役の機会として活かしている。電話で相談に乗ったり、市からの要請で講師を引き受ける管理者の顔は地域住民に親しみや認知度が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をリビングに掲示している。 玄関先には会社の運営方針なども合わせて誰でも目の届くように掲示してある。 ミーティングで声に出して理念を提唱することで意識が希薄にならないようにしている。	管理者と職員は地域密着型について話し合う機会を持ちホーム独自の理念を掲げ、法人の介護理念と共に目に付き易い玄関やリビングに掲示している。ミーティングで復唱する、具体的な毎月の目標を立てる等理解し易い工夫をしている。理念を踏まえつつ管理者と職員は入居者の一人ひとりの生活が成り立つ支援を話し合い考えながら共有を深め実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、各行事に可能な限り参加している。	地域住民の一員として町内会に加入し、回覧板で地域活動の情報を得ており 季節の行事や催し物に参加して親しく話す機会がある。公園の草取りやゴミ置き場のネットの保管、管理は地域の一員として継続している。近隣へは行事案内の挨拶や手作りの料理をお裾分けしたり、野菜を頂いたりする交流をしている。地域住民に認知症への理解を深める講師派遣の要請を管理者は受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の電話など年に数回あるたびに管理者が相談に乗っている。見学時なども入居に関わらず、今後の相談などをしている。認知症の人と関わるノウハウをサポートー養成講座を通して地域へ伝えている。積極的に見学者やボランティアを受け入れながら認知症の理解を求めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施内容や利用状況について報告したり話し合いをしている。今年度の開催はないが、家族の希望する勉強会などの開催を行う。 推進会議を重ねるごとに、家族が面会時に顔をあわせて家族同士での会話が出来るようになっていく。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。入居者、家族、地域住民、市職員、有識者、ホーム職員の構成メンバーである。活動や入居状況、介護報酬の改定、外部評価の報告など情勢による内容となっている。又質疑応答で活発な意見やアイデアをサービスの向上に繋げている。認知症の新薬について知りたいと家族から要望があり、製薬会社の出席で勉強の場として活かした経験がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	虐待防止ネットワークの構成員に管理者がなっており、会議に参加している。 市役所からの要請で勉強会の講師など管理者が勤めている。	定期的な運営推進会議に市の職員の参加があり意見交換や取り組みを伝えている。市主催の会議や研修に参加をしたり、講師の依頼があれば協力を惜しまない良好な関係となっている。困りごとや疑問のあるときは窓口に出向いたり 電話で相談をその都度行いアドバイスや指導を貰っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関開放やどこからも自由に入出入りできる環境を作っている。 環境は整備されているが、実際には出かけたい利用者を無理に止めている職員もいて理解ができていないかは不明。	玄関やリビング、ベランダの入り口は施錠していないため自由に移動が可能である。契約時に入居者や家族に拘束をしないケアのメリットを説明すると同時にリスクを予防する工夫も説明をして理解してもらっている。入居者の行動を職員の都合で制限したり、言葉の拘束について勉強と現場指導で入居者の思いを汲み取る機会として丁寧に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて管理者が関係者と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にはご家族に必要な説明を重ねて理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を聞いて直接支援へ反映している。 玄関に拝見箱が設置されている。 意見が寄せられたときにはミーティング等で話し合い実際に解決へつなげる努力をしている。	入居者・家族の意見や思いを表せる取り組みは玄関に拝見箱の設置、運営推進会議や訪問時に積極的な言葉かけで話し易い雰囲気作りを心がけている。入居者や家族の要望・意見には丁寧に管理者が対応をして運営に反映させていることが家族アンケートからも伺える。写真にコメントを入れたホーム便りで暮らしの状況を家族に伝え好評となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を出す機会があり、ご利用者の目線を持って必要なものは反映されている。 運営に関する意見や話し合いをする機会は特にない。	管理者は職員の表情に心配りがあり、思いや意見を日頃から出せる声かけをしている。会議では職員の意見やアイデアを取り入れ入居者が過ごし易い居場所となりまた職員が働き易い職場となるよう意見を検討しながら反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の小さな心情の変化も管理者は気に留めながら声を掛けている。 個々の能力差が大きく、就業時間を越えて業務しなければならぬこともあり難しいめんもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会がある。 勉強会なども参加希望を伝えると勤務の調整をしてもらえる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事などで他施設の方がフラダンスを見にきたりしている。 毎年、近くのグループホームから芋ほりの誘いもらっている。 会社の勉強会で他事業種の職員と関わる機会がある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後に本人やご家族から話を聞いたり、その人の関わる専門機関から話を徴収している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が家族との面談を重ねながら聞き取りをしている。 一スタッフの安易な発言でなく、無責任な発言にならないように上長に報告したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後に本人やご家族から話を聞き、在宅や病院で関わってきた専門職からアドバイスをもらうなどしている。 職員全員でアセスメントシートに記入をして介護計画に反映されるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うことで慣わしを学んだりしている。 季節行事を一緒に行うことでご利用者の暮らしてきた背景を学んだり他のご利用者との地域差などを話している。手伝ってもらった立場にならないように職員がしていることにアドバイスをもったり楽しんだりする中で「やったろうか」と言う意識への動機付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の希望に添いながらできる限りご家族にも協力をしてもらうように心がけている。 ご利用者が自分の暮らしを生きるという視点を忘れずに支援している。 面会時には本人と家族の居心地のいい場所で過ごしてもらえるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り思い出の場所に出かけられるようにしている。ご家族に限らない本人にとって大切な人の面会を支援している。部屋には写真が飾ってあり、いつでも面会できるようになっている。 本人の暮らしてきた場所の話を聞いたりしている。	家族や友人の面会が多くゆつくりと話が出来る時間や場所を提供している。日頃の暮らしぶりを写真にとって居室に飾ってあり話題作りにも努めている。家族との関係は外出や外食等でも良好に継続している。 野菜や果物などの産地で懐かしい話が出来るお手伝いや懐かしく拘りのある店に出かけたドライブの支援もしている。日常的に利用するスーパーや喫茶店等は馴染みの顔になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の理解できない部分を職員が支援している。 ご利用者の孤独感軽減に努めて握ったり愛コンタクトをしたり穏やかに過ごしていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者から季節に応じて手紙を書いたり、電話での相談に乗っている。 ご利用者がなくなれたときに通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をまず聞きながら支援の方向性を考えている。	管理者は入居前に本人や家族から生活暦やを一つでも多く引き出せる面接や様式を活用している。その人らしくその日の過ごし方を本人から聞いたり、外出や外食など偏りがないように表を作成して掲示している。日々の会話や季節行事の話題の中から入居者が子供の頃の思いを語りその人を知る手がかりとなる。言葉の出ない方にも表情から「何を希望しているか」を本人の立場になって気づくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後など本人・ご家族との交流を深めながら理解や把握に努めている。 入居前の情報を把握しやすくファイリングされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここのレベルに合わせて支援しているが、全体的に落ち着きがなくなるときもある。 朝からの言動や表情で気持ちの把握に努めている。 ADLが低下したご利用者に対し、退去という提案ではなく介護職員のできる限りで二人介助をしたりして		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを通して職員同士で話し合っている。 入院や、体調不良による急変時にはその都度新しい計画を立てたり見直したりしている。	心身の状況や身体の変化を毎日の介護記録に残し職員間で共有している。定期的な会議やモニタリングで現状を話し合い、本人本意の介護計画となるよう入居者の言動や表情から気づいた意見や工夫を出し合っている。家族へは毎月写真やコメントの入った便りで暮らしを報告し、要望や思いを出してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録担当者がその日に勤務した職員全員のためその人を支援する多くの職員から一日の記録を読み取る事ができる。 記録を色分けしてわかりやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問マッサージ、訪問美容など1人ひとりのニーズに応じた介護をしている。 必要に応じて、ご家族が対応できない病院受診の協力をしている。 家族との話し合いの上で、必要に応じ出来る事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。 地域のお店へ出向くこと。 ボランティアの方にアルバム作りや演奏会をしてもらっている。 近所のスーパーで買い物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に管理者とご家族で話し合いをしている。	馴染みの主治医を継続する利用者や、ホーム提携医や往診可能な開業医に変更する利用者がいる。安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に付き添いの看護師に相談したり、施設の看護師の意見を聞く事ができる。 朝礼時に看護師が立ち会うことで情報の共有ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が行っている。 入院時に本人に関する情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が行っている。 終末ケアにも取り組んでおり、最後まで何ができるか考え寄り添っている。	継続的な医療が必要になった場合や終末期については、その都度家族や医療関係者と相談を重ねて、今後の支援の方向性を話し合っている。ターミナルの経験もあり、家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置している。 吸引機の使用を看護師から学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練を通して「夜間、日中」と想定をしながら、訓練終了後には反省点を各自が記録し次回につなげている。 災害時用の非常食や備品も備えている。	スプリンクラーの設置や非常時の備蓄(飲料水、粥、缶詰等)、疾患や薬を記入した防災カードの備えはできている。年に4回の避難訓練のみならず、「火元探し訓練」をホーム独自で行っている。地域との協力体制は取り組む努力を重ねている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの好みを把握しながら食事や衣類などの生活に生かすようにしている。 同姓介護に対する配慮もある。	職員は声の大きさや言葉使いに気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。利用者の喜怒哀楽を大切にし、トラブルになりそうな場合には職員が入り問題回避している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にまず尋ねることから支援をしている。 一言の言葉かけで終わることなく、時間を置いて働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分には行えていないが、可能な限りの希望に添えるようにしている。常に全員に対しては難しいが入浴や外出などはチェック表を見て誘っている。個々の時間を大切にもらえるように無理にリビングに集めず居室でくつろいでもらっているが、時に「その人らしさ」を優先しているよう放置していることもあ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは声を掛けて意識してもらったり、介助をしている。衣類は選択してもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか尋ね、買い物、調理、片付けなど一緒にやっている。	希望や意向を聞きメニューを決めたり、食材も利用者と一緒に買い物に出かけているため、ユニット毎に違いはある。準備片付けは利用者の力量に合わせ、個々の力を発揮している。 職員も同じテーブルにて食事をし、家庭のような団らん風景を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ調理法を変えたり代替の物を提供している。 水分については一緒に飲むなどしている。 献立票を参考に同じものが重ならないように栄養に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。 往診医にてケアをお願いしているご利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導で排泄がない場合はその後にこまめに誘導するなどしている。	羞恥心やプライバシーに配慮した位置にトイレを設置している。各自の排泄リズムをつかみ、声かけや誘導をしている。その結果、リハパンから布パンツ＋パットに変更できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の提供に気をつけているが、便秘になるため下剤の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り毎日の入浴を支援している。スタッフの都合によるものが大きく時間は好きな時間に入るのは難しいところもある。	二日に一回の入浴が基本であるが、お風呂が好きでほぼ毎日入っている利用者が多数いる。重度者の介助には、複数の職員を配置し安全に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのときに応じて休憩していただいている。また、丹生民しやすいように居室の温度、明るさに気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の参加を中心に本人の希望に添って支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回の遠出、日常的な買い物や外出などを支援している。	日常的に散歩や買い物、喫茶店にでかけている。利用者全員が公平に外出できるよう外出チェック表に記録し、偏らないよう配慮している。また、利用者の希望する店に行く個別支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は限られている。 電話も希望されれば使っていたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとに飾り付けをしたり一緒に楽しんでいる。 エアコンに頼りすぎず、夏は外の風を取り入れたりしている。 食事の際にはテレビを消して音楽を流すなどしている。 大きな音を立てたりしないように配慮している。	掃き出し窓で明るく開放感があり、華美な飾りもなく落ち着いた雰囲気が漂っている。ゆとりある間取りで、のんびりとした時間を作っている。 台所からは食材を刻む音や、食事の匂いがして良いと家族アンケートにもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳のスペースがあり各自が気ままに自分の居場所を見つけながら暮らしている。 皆さん好きな場所でテレビを見たり日向ぼっこをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みものを置いたりしている。危険がある場合は家族と相談している。	居室の温度は職員により管理されている。壁には行事や外出の際の写真が飾られ、来訪者との話題作りや良き思い出となっている。 家族に協力を依頼して、使い慣れた家具や備品を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどわかりやすいように張り紙をしている。 生活空間に障害物がないように安全を配慮している		